



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2025年3月2日

No. 130

あなたがたの父が憐れみ深いように、
あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

マタイによる福音書 6章36節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL: <https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



一昨年、聖書月間の集まりだったと思いますが、皆さんへのアンケートを通して、良く分からない聖書の言葉について、質問コーナーのような時間がありました。質問が読み上げられ、私が短くコメントするという形式でした。その中で、次のような質問があったのを覚えています。「聖書に『敵を愛しなさい』とありますが、『敵』とは誰ですか？」あらかじめ準備することなく、質問に答えて行くという形式でしたから、私は思いつくままに答えてまいりました。最初に申し上げたのは、「皆さんは『敵』とは誰だと思いますか？」という問いかけであったと思います。そして次に申し上げたのは「『敵』とは私たちです」ということでした。

これまで何度か触れてまいりましたが、私は人が聖書を読む時、人間の思いに従って読もうとすると、そこに示される神の思いを受け止めることが出来なくなると思います。そうではなく、そこに示される神の思いに耳を傾けていこうとすることが、聖書を読み、理解するために欠かせないことだと思うのです。「敵を愛しなさい」という教えを、人間の思いに従って読もうとするならば、「私の敵は誰か」となってしまうのは当然のことでしょう。ところが神の思いに耳を傾け、それに聞いていこうとする時、「敵」とは誰かではなく、私たち自身であったという事実の前に、私たちを立たせるのです。「私こそが敵であった」と気づかされる時、同時に私たちは「しかし敵であるこの私が愛されたのだ」という驚くべき事実の当事者であることを知るに至るのです。つまり「敵を愛しなさい」という教えは、単なる理想論を掲げているのではなく、何よりもまず主なる神が、その罪のゆえ

に神に背く私たちをそのまま愛されたということなのです。生まれながらにして罪人である私たち、神の御心に従えず背いて生きる私たち、それは紛れもなく、神にとって敵と見做されても仕方のない私たちです。その敵を赦すために、キリストは十字架の上で死なれたのでした。これが「敵を愛しなさい」と言われている方が、まず私たちにしてくださったことなのです。この愛によって、今私たちは生かされているのですから、その愛を受けて、その愛のゆえに、私たちは誰かを愛することができるのです。

マザーテレサさんは、「愛の反対は無関心である」と言われましたが、無関心であったとしても誰からも何も言われない、そんな誰かを思い、何とかしようと動かされる。ここに愛があるのです。この愛は、私たち人間のうちから生じるものではなく、神が何よりも、赦されないはずの私たちの罪を、キリストの十字架によって赦し、愛された愛によって起こされる奇跡なのです。

「主、我を愛す」2 番は「わが罪のため、さかえを捨てて、天よりくだり、十字架につけり」「我が主イエス、我を愛す」。「主、我を愛す」。今日私たちはこの神の愛に驚かされることが必要です。その愛に心動かされることが欠かせないのです。それこそ「敵を愛しなさい」という教えが、まずこの私に向けられた神の愛であったことを思い起こさせるからです。この神の愛がすべての人々に届けられるように、まず私たちは神の愛に満たされましょう。そのいただいた愛を具体的な誰かにあらわして生き始める群れとして、今日この愛に満たされ、愛に励まされて人々に仕えてまいりましょう。(顕現後第 7 主日)

●「これからの教会を考える集まり（仮称）」

今年の教会総会にて承認された、今年度宣教計画では「将来への備えを始める」を掲げました。その中でうたっている「これからの教会を考える集まり（仮称）」を2月23日の礼拝後、初めて開催しました。たくさんの方々に集まっていただき、良い時間を持つことが出来たと思います。教会の働きについて考える時、それは牧師であり役員会である傾向があったでしょう。しかしルーテル教会において、「教会は『全信徒の集まり』」と告白しているのですから、皆さんと一緒に「これからの教会」について考えまいるのです。「教会は全信徒の集まり」という告白が意味しているのは、皆さんお一人おひとりが「当事者」であるということです。皆さんの声を集めそれをもって教会形成をしてまいりましょう。

●これからの「新しい」教会

「これからの教会」という時、それは「牧師不足」という現実の課題に対応する教会ということになるでしょう。しかしそれだけではないのです。「これからの教会」とは東教区宣教方策にみる「新しい教会」と重なるのです。東教区宣教方策にみる「新しい教会を目指して」、それはこれまで当然のように考えられて来た考え方や慣習から、新しくされる教会のあり方を目指したものです。

そこに掲げられた、これまで当たり前であったことを挙げてみますと、①1教会1牧師

②礼拝は日曜日の10時半 ③「わたし」の教会（各個教会主義？）などがあるでしょう。「牧師不足」だからこれらがかなわないという諦めではなく、ここにこれからの「新しい」教会への足がかりを見いだしましょう。これらのことを中心に「これからの教会を考える集まり（仮称）」で、皆さんと分かち合っ

ていければと思います。

●「これまで」からの解放

「これまで」東教区の多くの教会は、「1教会1牧師」を当たり前のこととして来ました。しかし「これから」の教会はそれを保てないことが予想されています。「牧師不足」を否定的にみると、課題だけが残るように映ります。逆に肯定的にとらえてみる。これが「新しい」教会へとつながるのだと思います。どういうことかと申し上げますと、牧師の働きが「これまで」に比べ「少なくなる」（否定的）ではなく、信徒の働きの方が「これから」はより必要とされる（肯定的）となるのです。これは教会が「全信徒の集まり」と告白するルーテル教会の持つ、本来の教会への回復であると思います。一人ひとりが教会の当事者となって、教会を再形成する機会を得るということです。

●新しい日本福音ルーテル教会へ

藤が丘教会の皆さんからするなら、「藤が丘教会」こそが「教会」にちがひありません。しかし「全信徒の集まり」という場合、それは「藤が丘教会の」ということではありません。日本福音ルーテル教会の「全信徒」なのです。当然、そこには「各個教会主義」のようなものは存在しないはずなのです。礼拝の時間やその他のことも、全体に目を向けて最も良い方法を見いだそうと。互いに認め合い、譲り合えるはずなのです。

話が全国に広がってしまいましたが、いずれにしても「これからの教会を考える集まり（仮称）」では、皆が当事者意識を持って、信徒の集まりを整える機会にしていまいりましょう。ぜひ次の機会にもお集まりください。（佐藤）

●女性会だより

2月16日 女性会 参加者10名

司会・祈り ○山姉
讃美歌 303番

1 聖書の学び

コロサイの信徒への手紙 3章 1節～17節
「寛容を身につけなさい。」

2 女性会例会

①2025年、藤が丘教会女性会の登録人数
についての話し合いの結果、27名を東
教区女性会に登録する。

②在り方検討委員会報告

(1月30日 オンライン会議)

城南神奈川地区女性会の交わりにつ
いて

コロナ前に開催されていたお互い
の女性会を知るための茶話会の提
案があり、藤が丘教会女性会に調
整を依頼されている。

春の集い

→4月12日 聖パウロ教会にて

秋の集い

→11月22日 市ヶ谷教会にて

神学生支援についての説明

次回は3月16日

●CS だよりー共同制作の報告

2月9日、教会学校ではバレンタインデー
に向けて、小中学生が「ハートの樹」作りに
取り組みました。それぞれが1本の木の一部
を担当し、シールやハートで飾り付け、幹を

今月、受洗記念日を 迎えた方々

5日 田○○一郎兄、田○○るみ姉
22日 ○山○子姉 23日 津○○子
姉 26日 ○谷○介兄、○本美○子姉
31日 ○井○樹兄、○谷○美姉



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう
「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
ローマの信徒への手紙12章15節
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



仕上げました。通りすがりの方々が神さまの
愛を感じられるようにと願いを込めて教会の
窓に飾りました。3月には卒業、4月には進
入学を迎える子ども達が、神さまの愛に包ま
れた春を迎えられますように。(○野○苑)



📱スマートフォン
で、こちらのQRコード
を読み込むと、教会
のさまざまな情報を、
確認出来ます。